

	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		部屋数も多く、それぞれ規定よりも一人当たりのm2より広いスペースである。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		児童指導員は適切に配置されている。児童の疾患、特性に合わせて指導員も設置している。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		下駄箱や私物を置く場所には名前を張り、明記。玄関は入室時に必要があればスロープ設置が必要だが室内はバリアフリーとなっている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		絨毯やマットで活動と癒しの場と分けて使用。毎日の掃除を徹底し消毒液も安全に使用できるように保管している。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		全室ドアがついており相談室もあるため対応可能。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		事業所として定量定性を決め、それに対して各スタッフが個別目標を設定し月1回管理者と面談している。毎日朝のミーティングでの情報共有と夕方は社員でのその日の振り返り、翌日の打ち合わせを実施している。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		半年に一度実施予定。開所3か月目での保護者会も開催予定である。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		管理者との個別面談を月1回、朝晩のミーティングを実施、社内チャットでの情報共有も可能な状況である。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		半年後実施予定である。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		入職時研修実施済み、半年に一度研修実施予定。社外から講師をお招きしての研修会は2か月に1回実施してきた。法人全体の研修も希望者は参加可能となっている。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		月一度のプログラム作成、アプリ内での共有している。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		児童発達支援管理責任者のもとで利用開始時、その後適宜スタッフを交えミーティングを実施している。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		上記
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別ファイルを作り、計画の共有をしている。またICT上でも内容確認可能となっている。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたアセスメントツール(例:Vineland適応行動尺度)と日々の行動観察を組み合わせ確認している。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		課後等デイサービス計画には、「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」の各ねらいおよび支援内容を踏まえ、子どもの状況に応じた支援項目が適切に設定されており、それぞれに対して具体的な支援内容が明確に記載されている。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		前月にスタッフ間で翌月分を立案し前日までに状況が変化すれば修正し実施する。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎月話し合いをし、活動での子供達の反応等評価し次月に向けて工夫を重ねている。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者を中心に計画、支援を実施している。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝晩二回のミーティング実施している。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		上記。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		保護者に向けても実施記録を毎回送付、記録も別途記載している
	23 定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		初回アセスメント～3か月目にモニタリング予定しているが児童発達支援管理責任者も送迎には意図的にご家族ともかわりを持つようになっている。スタッフからも児童、ご家族の変化がないか定期的に意見を収集している。
24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援を行っているか。	○			
25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		勉強会を開催しながら、支援に取り組んでいる。	
関係機関や保	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理者(医療的ケア児コーディネーター)、児童発達支援管理責任者、児童指導員が内容により参画している。(放課後等デイサービス会議、児童発達支援会議、医療的ケア児コーディネーター会議等)
	27 地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		体制あり。主治医と指示書等で連携あり。
	28 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	○		学校送迎時に教員と話し、共有している。

保護者との連携	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		相談支援専門員を通して情報共有あり。適宜こちらからも情報提供を行っている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		現時点で該当者おらず。今後必要時には実施を予定している。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	△		各会議体では共に参加しているが放課後等デイサービスでの個別ケースでのスーパーバイズ等はまだまだため今後連携を図る予定となっている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		その日のメンバー構成によるが児童館、地域の公園、地域を知り体力づくりになるよう街探検等積極的に実施している。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○		管理者がやむを得ない事情がない限り毎回参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		こどもの成育歴や家庭での様子などについてもお話を伺いながら、発達の状況や課題について保護者と共通の理解を持てるよう努めている。ICT活用しご家族にも手軽にやり取りができるよう整備、また送迎時にも適宜確認している。
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		防災キャンプ実施した。4月24日デンマークの障がい者施設で活躍される日本人の方をお招きしてのセミナーを開催予定。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時を含め保護者会等で説明努力をしている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		送迎時など日常の関わりの中でも児童やご家族の意向をお聞きする機会を設け、継続的に声を伺うようにしている。ICTも活用している。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		家族支援サポートとして、時間を設け面談は随時実施している。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		体験会や、交流会は実施しており、きょうだい児も一緒に過ごせる時間を設けている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		適切に対応できる体制を整備しており、苦情受付の窓口や対応方法については、契約時や定期的な機会を通じてこどもや保護者に周知している。また、苦情があった場合には、迅速かつ誠実に対応し、必要に応じて改善に努めている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ICTを活用し、保護者との連携を密にしている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付き書庫を設置し、個人ファイルなど保管している。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚伝達ツールをはじめ一人ひとりが認識しやすい方法、サインについてご家族からも情報収集し日頃の様子も分析しスタッフ間で共有する。利用時のご様子に関しては毎回ではないができるだけ写真を用いて活動の様子をお伝えする。福祉用語は使用しないようにスタッフに教育する。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		事業所が運営する行事は一部地域に開いている。見学は随時対応している。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	△		マニュアル作成済している。職員間での座学研修は実施しているがシミュレーションを用いた訓練は現在計画中であり実施未である。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCP策定済。ぐるんといびり自身が平時から防災に関する取り組みがされており、防災キャンプを実施している。備蓄に関してはローリング方式としている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		管理者が看護師としても勤務しており、対応方法などスタッフに周知している。主治医・ご家族と事前情報共有し児童に合わせたシミュレーション研修を行っている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在食物アレルギーの児童はいないが保護者から未摂取の食品等は情報収集するようにしている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	△		計画は作成済みである。事業所内での児童の受け入れに際し事業所の環境についてシミュレーション研修をしながら改良してきた。安全対策に関してスタッフ個々での認識も違うため継続した研修を実施していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に、広域避難場所等について確認している。街探検の中でも広域避難場所へのルートを子供達と通るようにしている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットは共有し、該当者はレポートを提出する。管理者を中心として今度の対策を検討、実施する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		マニュアル作成し、スタッフに周知している。現在該当ケースはない。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		現在、身体拘束を行う場面はないが、万が一やむを得ず身体拘束が必要となる場合には、法令に基づき組織的に判断し、こどもや保護者へ事前に十分な説明を行い、了解を得た上で放課後等デイサービス計画に記載する体制を整えていく。